

16	デザインを介しての宇都宮まちづくり「スイーツの提案」	提案団体名	
		代表者氏名	所属
		新しい名産研究会	
		高橋 元彦	文星芸術大学 美術学部
		指導教官氏名	金子 修也

1 提案の趣旨

このふたつのデザイン提案は、宇都宮を魅力化する食商品であり、その物的内容とデザインのコンセプトアイデアである。

一般に新商品の提案は、市場調査やビジネスプランをともなっているものとなる。しかし本提案は、そうしたプロセスを踏まず、「先ずアイデアあり、姿かたちあり」によっている。いいかえると「こんな物が欲しい」と投企 = eject するものである。デザインの特徴的働きのひとつは、諸要件・諸要素を「かたち」にまとめあげて人びとに提示する能力である。

もしこの提案が「行けそうだ」と予感でき触発されるならば、可能性調査やビジネスプランないし商品化計画は、改めて行われるものとしている。

2 提案

提案1：栃木県産自然食品を食材にした季節菓子

「スロー・スイーツ」

- 1) 栃木県は豊かな農業産物を誇っている。この後背産地に自然農法等安全食材生産を推進し、それら食材を「宇都宮の新たな魅力となる新イメージのスイーツ」にし、市内、県内はもとより、交通旅客を介して域外に広める。
- 2) 自然・安全をテーマにするため、季節アイテムの訴求を重視する。そこに話題性の中心を置く。
- 3) むろん本格的な企業家が参画してもよいが、場合により女性ないし地域の起業グループでも可能な内容を基盤にする。
- 4) 宇都宮に「親しくおしゃれなセンス」を喚起する商品とデザインと成す。

提案2：餃子の街に

「スイーツぎょうざ」を

- 1) にんにく臭のない「お菓子ぎょうざ」を、餃子の街宇都宮に加える。
お菓子餃子は、おみくじ餃子などとともにすでに存在（中国など）したがって、「占いぎょうざ」も商品群の一角になる。
- 2) 列車内でも抵抗がない。
持ち帰りも楽。味の変化も少ない。お土産好適品になる可能性あり。
子どもにもよろこばれ「宇都宮の餃子」を若年時からインプットできる。
- 3) ぎょうざの楽しみを多角化するため、商品内容に加え、機動的販売拠点展開を開発する。

以上2案とも、宇都宮まちづくりブランドの立ち上げを企図した「この指とまれ」の提案である。